

原子力リスク研究センター (NRRC)  
一般財団法人 電力中央研究所  
〒100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1

ジョージ・アポストラキス、NRRC所長

2021年4月16日

J. W. ステットカー氏  
NRRC 技術諮問委員会 委員長

件名：2021年2月16日付報告書「リスク情報を活用した意思決定の枠組み構想の詳細」

ステットカー委員長

我々の研究計画をレビューして頂く中でのやりとり、および委員会から示された知見に感謝申し上げます。貴殿からの提言に対して、まず我々がどのように我々の研究活動を事業者のニーズと調整しているかについて述べたい。

事業者の最新のニーズは、2020年6月19日に公表された「リスク情報活用の実現に向けた戦略プラン及びアクションプラン（2020年改訂版）（\*1）」の中に示されている。この中で、「事業者のPRAの適用範囲の拡大に向けた取り組み」、「PRAのスキープの拡大」、そして「研究開発」について、NRRCとの連携も含めて、示している。

一方、NRRCは、事業者の戦略アクションプランに対応するものとして、「NRRC研究ロードマップ」（\*2）を策定している。NRRCでは、この研究ロードマップに従い、以下の作業グループを通じて、毎年度、事業者の具体的なニーズを取り込み、当該年度のNRRC研究計画を作成している。

- ・ 個別研究を議論するサブWGから構成される作業グループ1（WG1）と作業グループ2（WG2）において、各社の本店マネージャークラスと研究成果を共有し、個別の研究ごとの実施項目とスケジュールを決定する。
- ・ 各社本店上級管理職から構成される「技術会議」（\*3）、そして各社の原子力経営責任者(CNO)クラスで構成される「CNO（原子力経営責任者）会議」（\*3）において、研究プログラムの全体が事業者ニーズに照らし適切な活動となっているかを確認する。

このようなプロセスにより、NRRCでは、事業者と定期的に意思疎通を図り、研究途中においても事業者の具体的なニーズを踏まえることが可能になっている。

※1：次のURLを参照

[https://www.fepec.or.jp/about\\_us/pr/oshirase/\\_icsFiles/afieldfile/2020/06/19/press\\_20200619\\_b.pdf](https://www.fepec.or.jp/about_us/pr/oshirase/_icsFiles/afieldfile/2020/06/19/press_20200619_b.pdf) (日本語)

※2 : 次の URL を参照

<https://criepi.denken.or.jp/jp/nrrc/intro/pdf/roadmap.pdf?2020> (日本語)

<https://criepi.denken.or.jp/en/nrrc/intro/pdf/roadmap.pdf?2020> (英語)

※3 : 次の URL を参照

<https://criepi.denken.or.jp/jp/nrrc/intro/conference.html> (日本語)

<https://criepi.denken.or.jp/en/nrrc/intro/conference.html> (英語)

我々が、「リスク統合」や「リスク管理」といった TAC レターに示された用語を明示的には使用していないことは事実である。我々は、研究プロジェクトの文脈において、この用語について考え、事業者と議論したい。また、次回の東京での会議で TAC と議論したいとも思う。残念ながら、TAC のメンバーの地理的な所在から、ビデオ会議を開催することは不可能である。

敬具

ジョージ・アポストラキス (本人署名)